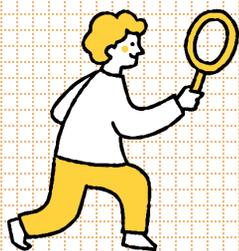


復習用

5つのability別

アドバース集

思考力・表現力シリーズ



思考力・表現力チェック

思考力・表現力テスト



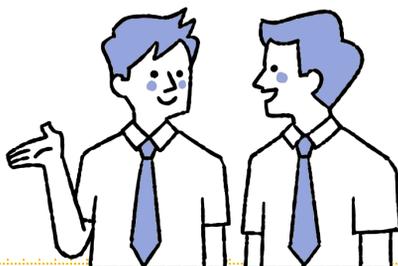
大学入試論述力テスト



河合塾



1 英文型（医系）	「健康」の定義	03
2 英文型（文系）	異文化への対応	04
3 図表分析型	少子化問題	05
4 医系	医療におけるA I の活用	06
5 法政治系	情報化社会と民主主義	07
6 社会経済系	「働く」とはどういうこと	08
7 人文系	「言語」の働きとは何か	09
8 教育系	主体的・対話的な学び	10



■知識活用力

課題文を正確に理解するために、医療や健康に関わる英語の語彙力が必要である。当然、課題文内容を理解する上で、医療についての知識も必要である。

たとえば、課題文中に登場する、がんや高血圧などの慢性疾患についての知識、感染症対策など現代の医療課題についての知識があると、解答は容易になる。参考書に加えて、テレビや新聞、インターネットなどを用いて、医療に関するニュースを追いかけ、知識を蓄積しておくとういだろう。

■読解力

正確に英文を読み、理解する能力が求められる。一文一文を丁寧に読みとる作業に加え、パラグラフごとの内容を的確につかみ、課題文全体の主旨、構造や構成を正確に把握する能力も必要だ。

医療に関するテーマを扱った課題文の場合は、医療についての一般的知識を前提に議論が展開されていることが多い。課題文の前提となっている考え方や、筆者の問題意識を推論しながら、文章を読みとる能力が必要となる。

■発想力

課題文で議論されている医療課題に関して、適切な具体的事例を発想したり、課題に対応する方法を考えたりすることが求められる。

医療者・医療機関の役割についての知識、日本の医療制度や公衆衛生政策についての知識が必要となるが、単に知識があるだけでは発想力は身につかない。自分の持っている知識を課題文の内容と結びつけることで、答案作成に必要な内容を思いつくことができる。小論文の問題を解いた後に、関係する知識を収集し、自分なりに論じられているテーマや課題についての理解を深めておこう。

■構成力

自分の意見を、論理的に、説得力のある形で提示することが求められる。

医療系の学部・学科の場合、自分の意見が「医療を志す者としてふさわしい」ものであることを答案の中ではっきりと示すことが望ましい。論理的に筋が通っていることだけを重視するのではなく、患者の権利の尊重やQOLの実現といった、医療者が果たすべき役割と整合する内容・構成の答案を書く力が必要となる。

■表現技術

本問では、英文を読んだうえで、それについて日本語で説明することが求められる。日本語で答えるとしても、英文（課題文）の内容を正確に説明しているかどうかを採点者は丁寧にチェックしている。①英文の内容を正確に反映させ、②設問の要求にも的確に対応した内容で、③日本語の文章としてわかりやすい文章を書かなければならない。

問題演習を繰り返すと共に、自分の書いたものを見直し、改善する作業を行うとうい。

■知識活用力

基本的な英語の語彙力が必要である。語彙の知識がないと、英文の課題文を正確に理解できないし、記号問題に登場する語彙も理解できない。語彙力に加えて、言語や文化、社会など人文系の学部で扱われるテーマについての知識があると、課題文の読解や答案作成が容易になる。

本問の場合は「グローバル化とは何か」、「多文化主義・多文化共生とはどのような理念か」、「世界各国で移民をめぐってどんな社会的課題があるか」といった点についての知識があるとよい。現代社会の課題は数多くあり、すべてを網羅することは難しいが、主要なものについては本や参考書、あるいは現代社会の教科書などを用いて勉強しておくとういだろう。

■読解力

まずは正確に英文を読み、理解する能力が必要である。一文一文を丁寧に読みとる作業に加えて、パラグラフごとの内容を的確につかみ、課題文全体の主旨、構造や構成を正確に把握する能力も必要だ。

文系の英文問題では、人文学や社会科学に関するテーマをとりあげた課題文や設問が出題されることが多い。課題文の議論の前提となっている人文学・社会科学の基本概念は何かを考えながら課題文を読めるようになると、深い読解が可能となる。

■発想力

本問では、具体的な場面や課題をとりあげ、課題文の主張内容と結びつけて検討したり、説明したりすることが求められる。特に難しいのが、適切な具体的な場面や課題を考え付くことである。

ニュースや本などで、社会で起きている様々な出来事について知ることは大事だが、単に色々な出来事について知っているだけでは不十分だ。自分の知っていることが課題文のテーマや筆者の主張とどのように結びつくかを考え、言語化する能

力が必要である。社会で起きている様々な出来事について、自分なりの見解や意見を持ち、それを言葉にする練習を積んでおくとうい。

■構成力

自分の意見を、論理的に、説得力のある形で提示することが求められる。

特に重要なのは、自分の考えと課題文の議論・主張との対応関係である。課題文と同じ考えを書く場合もあれば、異なる考えを書く場合もあるが、課題文と自分の意見の「共通点」や「相違点」がはっきり分かるように説明する力が必要である。具体的な事例を挙げながら自分の意見の根拠を説明するなど、自説の説得力を高める方法を幾つか持っておくことも大切である。

■表現技術

本問では、英文を読んだうえで、それについて「日本語」で説明することが求められる。日本語で答えるとしても、英文（課題文）の内容を正確に説明しているかどうかを採点者は丁寧にチェックしている。①英文の内容を正確に反映させ、②設問の要求にも的確に対応した内容で、③日本語の文章としてわかりやすい文章を書かなければならない。問題演習を繰り返すと共に、自分の書いたものを見直し、改善する作業を行うとうい。

■知識活用力

本問は、少子化問題についての理解と少子化対策の提案を求めている。問題のテーマを理解するためには、数学や情報で学ぶデータの分析の知識や時事問題についての基礎的な知識が必要である。

データ分析の知識があやふやな者は、数学の復習を行うとよい。時事問題については、日頃から新聞や TV の報道番組を通じて時事問題に関するニュースに触れる努力を怠らないようにしましょう。また、情報に接する際には、鵜呑みにせずにクロスチェックを行う習慣を身に着けよう。

■読解力

正確に図表を読み取り、各資料を的確に関連付け、設問に解答するために必要な情報を見つけ出す力が必要となる。

データの読み取り問題は、得意な受験生と苦手な受験生の間で差がつきがちであるので、数学や情報 I、社会、理科などの科目で練習をするだけでなく、ニュースに掲載されている時事問題にかかわる統計データを読む習慣も身に着けたい。度数分布表、ヒストグラム、箱ひげ図、散布図などは入試で出題されがちであるので、読み取りを行えるようにしておきたい。

■発想力

本問は、少子化問題についての知識を図表に示されたデータと関連付けて適切な推論を行い、少子化対策を発想することを求めている。図表のデータを無視して、インターネットで聞きかじった対策を書くだけでは評価されないので注意したい。

時事問題を扱うニュースでは、統計データが扱われることが少なくないので、それらを読み飛ばさずに、背景にどういうことがあるのかを考察する習慣を身に着けよう。また、政府の政策などがどういったエビデンスに裏付けられているのかについても考察する習慣を身に着けたい。

■構成力

自分の意見を明快な論理で組み立て、説得力のある答案を作成することのできる力が求められている。こうした力は大学入学後に重要となるので、大学入試の試験採点者も重視している。

論理を明確に組み立てることで、書こうとした内容は同じでも評価は高くなる場合があるということは常に意識しておきたい。結論がどこにあるのかわからないような答案や、論拠が明確でない答案は低く評価されてしまうので注意しよう。論理の組み立て方の基本は論理国語や国語表現で学んでいるはずなので、理解があやふやな者は復習しよう。

■表現技術

文法的に正しく、シンプルでわかりやすい文章を書くことが求められている。小論文は小説やエッセイではないので凝った文章を書く必要はない。

自分ではこう主張しているつもりであるのに、答案の採点者に理解されなかったと感じている受験生もいるだろうが、分かりやすい日本語表現で書かれていないことは評価の対象とされないということは肝に銘じておきたい。自分が書いた文章は書きっぱなしにせずに、きちんと読み直して、どう書けばよかったのか考える習慣を身に着けよう。

■知識活用力

問題のテーマを理解するためには、医学・医療をめぐる状況に関する基礎的な知識が必要となる。日頃から医学・医療に関するさまざまなニュースや新聞記事、あるいは書籍（医師によるエッセイや新書など）を読む、といった努力を怠らないようにしよう。その際、断片的な知識の集積ではなく、知識の体系化を目指すように心がけよう。

本問の場合、先端医療分野の例としてAI（人工知能）の医療応用がテーマであることから、AIとはどのようなものか、人間による医学・医療に対してAIがどのような恩恵をもたらすのか、といったことについての基本的な知識が求められる。また、AI導入前の従来の医学・医療についての理解も必要になることも理解しておこう。

■読解力

課題資料には、和文、データのみならず、英文や図版など、さまざまなものがある。これらに記されている内容を、知識を駆使しながら正しく読み取る読解力は、思考力型問題と向き合う上での基本となる力である。知識活用力を鍛える際に合わせて読解力も鍛えるように意識しよう。

本問の場合、2つの和文資料が与えられている。1つはがんゲノム医療におけるAIの活用、もう1つはAIを活用した診断に関するものである。いずれの課題文も、AIを医療においてどのように活用するか、それによって医療がどのように変化するか、AIを活用することでどのような課題が生じうるか、といったことを論じたものである。長大の文章の中で重要な個所を見落とすことなく読みこなすために、課題文のテーマや構成を意識しながら読むことが重要である。また、複数の資料の間でのつながりも考えながら読むようにしよう。

■発想力

設問に応じて適切に解答の枠組みを構想するには、設問で要求されている事柄を理解し、課題資料をヒントにしながら、自身の考えを理由ととも

に説明することを意識しなければならない。日頃から自分の意見を他者にわかりやすく伝えるにはどうすればよいかを考えるようにしよう。

本問の場合、特に問5が自身の見解を述べるものであるが、AIの活用が進むなかで、医師（医療者）の仕事がどのように変化するかが問われている。抽象的な問いかけだが、AIを活用する場面を具体的に想起しながら、医療およびそこでの医師（医療者）の役割がどのようなものになるかを考えてみよう。AIの活用が患者にどのような恩恵をもたらすか（恩恵がないならAIを活用する必要はないのだから）、またAIを活用するにあたって留意すべきこと（ここから、これまではなかった医師・医療者の役割が考えられる）などを、課題資料の内容を参考にしながら構想する必要がある。

■構合力

頭の中で描いた内容を説得力ある解答としてまとめるには、具体性（事実に基づいた議論や適切な例示）と論理性（的確な概念を用いた整合的な立論）の両方をバランスのよく配した解答を作成することが重要だ。この点で、答案の構成にも十分な意識を配るようにしてほしい。

本問の場合、「どのように変化するか」という設問の指示に応答した内容を明示するのは重要だ。しかし、それが単なる思いつきではなく、妥当性を有していることを示す必要もある。そのために、構想段階で想起した具体的な活用場面を読み手に提示しながら説明するのも一手であろう。そうすることで、具体性と論理性が備わった読みやすい構成の答案の作成を目指そう。

■表現技術

作成した解答には必ず読み手がいる。この当然のことは見落とすことなく、丁寧な文章を作成することを習慣づけるようにしよう。

本問の場合、問1～3、問5で論述が求められている。丁寧に文字を書く、呼応・接続関係に注意する、「文章表現の規則」に則った文章を書く、といったことは当然ながら、問5のような見解論述では段落構成も意識するようにしよう。

■知識活用力

問題のテーマを理解するためには、一般的な教養と系統的な知識が必要である。日頃から新聞やネットのニュースを読む、志望系統に関わる書籍（あまり専門的でない「新書」程度のものでよい）を読むといった努力を怠らないようにしよう。

本問の場合、情報化と民主主義の関係が主なテーマである。まずは、民主主義の理念型についての知識や討議・熟議の重要性についての理解を深めておこう。また、インターネットなどのITの活用が民主主義を活性化ないしは補完するか、という近年の重要な議論についての知識・理解も身につけたい。そのうえで、さらに問4の選択肢にある現代社会の重要な政策課題についての知識も増やしておこう。

■読解力

課題資料を的確に読み解くには、その内容を正確に読解する論理的読解と内容の妥当性を吟味する批判的読解の2つが必要である。つねに5W1Hという疑問詞を意識して課題資料に取り組むようにしよう。

本問の場合、課題資料(問3の英文資料も含む)には、インターネットなどの情報技術が発達することが民主主義に与える影響について、肯定的な面や可能性と、否定的な面や危険性という形で検討されている。法政治系の受験生は、テクノロジーの進歩が民主主義のような近代社会の原理に与える影響についてこのように多角的に論じた文章を読み解く練習をしておきたい。

■発想力

設問の要求に即して適切に解答の枠組みを構想するには、説明に必要な要素や論述を形作る主張と論拠を組み立てていくロジック(処理の手順・道筋)が必要である。日頃から読み手を意識したロジックを構想する習慣をつけよう。

本問の場合、問4の論述で、情報技術の発達が民主主義における熟議の必要性を強めるかどうか

について、「老後の社会保障」、「エネルギー政策」、「移民の受け入れ」という3つの政策課題のどれかに即して論じるわけだが、その際に課題資料の重要な論点をいかす工夫が必要になる。日頃から自分なりに興味のある具体的な政策課題について、それを民主主義の原理と関連づけた形で問題意識を培っておきたい。

■構成力

構想したロジックを説得力ある解答に仕上げるには、具体性(事実に基づいた議論や適切な例示)と論理性(的確な概念を用いた整合的な立論)が必要である。ふだんからこの2つを意識して考えるようにしよう。

本問の場合、問4の見解論述では、選んだ政策課題について、民主主義・熟議の面での課題も含めて簡潔に説明し、次にどんな情報技術がその課題の解決に繋がる可能性があるかを検討し、それが本当に解決に繋がるのかを論じる構成が望ましい。こうした全体の論理構成を意識して、課題文の論点と具体例を自分なりにつないで論じる力を養っておきたい。

■表現技術

読みやすい解答を書くというのは、技術かつマナーである。誤字や脱字に気をつけて丁寧に文字を書く、議論の展開が明確になるように呼応・接続関係に注意するなど、「文章表現の規則」に則った文章を書く習慣をつけよう。

■知識活用力

本問は、近代社会における労働についての理解を問う問題である。問題のテーマを理解するためには、社会経済的な問題についての基礎的な知識が必要である。日頃から新聞やTVの報道番組を通じて、時事問題に関するニュースに触れる努力を怠らないようにしよう。

また、大学入学後に学ぶことになる学問分野の入門書を読み、その基本的な考え方を知っておくとよい。例えば経済学部を受験するなら、市場メカニズムについて知っておく必要がある。近年では、高校生向けに入門書を出版している大学も増えてきているので、探してみるとよい。

■読解力

課題文を読み取り、設問に解答するために必要な情報を見つけ出す力が重要となる。経済社会系の文章を読み慣れていないと、読解に苦しむことになる。

近年の大学入試では、入学後に学んでいく分野の易しい文章を課す大学が増えているので、早いうちから志望学部学科に関わる入門書を読んでおくのが理想的である。また、大学入試では似たような問題が出題されることが多いので、機会があれば、受験しない大学の入試問題についても読んでおくるとよい。そして、志望学部の学問分野のロジックに慣れておこう。

■発想力

本問では課題文を踏まえて近代における労働について考察を行うことが求められている。近代における労働の意味づけといったことについて考えたこともない受験生にとっては難しい問題であっただろうが、経済社会の分野では重要テーマのひとつである。

発想力を高めるためには、自分が志望する大学の学部でどういった研究が行われているのかについて知っておく必要がある。そして、そこで扱われているテーマについて常日頃から考えたり、身

近な人々と議論をしたり、考えたことをメモに取ったりする習慣を身に着けるのが一番効果的である。

■構成力

自分の意見を明快な論理で組み立て、説得力のある答案を作成することのできる力が求められている。こうした力は大学入学後に重要となるので、大学入試の試験採点者も重視している。

論理を明確に組み立てることで、書こうとした内容は同じでも評価は高くなる場合があるということは常に意識しておきたい。結論がどこにあるのかわからないような答案や、論拠が明確でない答案は低く評価されてしまうので注意しよう。論理の組み立て方の基本は論理国語や国語表現で学んでいるはずなので、理解が曖昧な者は復習しよう。

■表現技術

社会経済の学問分野では、文法的に正しく、シンプルでわかりやすい文章を書くことが求められている。小論文は小説やエッセーではないので凝った文章を書く必要はない。

自分ではこう主張しているつもりであるのに、答案の採点者に理解されなかったと感じている受験生もいるだろうが、分かりやすい日本語表現で書かれていないことは評価の対象とされないということは肝に銘じておきたい。自分が書いた文章は書きっぱなしにせずに、きちんと読み直して、どう書けばよかったのか考える習慣を身に着けよう。

■知識活用力

問題のテーマを理解するためには、一般的な教養と系統的な知識が必要である。日頃から新聞やネットのニュースに目を通し、志望系統に関わる書籍（新書レベルでよい）を読むように心掛けよう。

本問のような問題であれば、言葉についての基本的な考え方が教養として備わっていることが望ましい。それはたとえば、言葉はコミュニケーションの道具であると同時に、世界を認識するための仕掛け、あるいは言葉は世界そのものだったことである。

■読解力

課題文の細部にも配慮しながら、全体の構成をつかみ取り、筆者の言わんとすることを確実に理解する必要がある。そのためには、事実の記述と筆者の思いを切り分け、また、何と何が対立的に書かれているのかを読み取り、なぜ・どうして、と考えながら課題文を読み進めていけるとよいだろう。

本問は3つの出典から構成されているが、【C】であれば、感情の「発露」と「秘匿」とを対立させて考える筆者の「詩」への思いとその理由を読み取っていく。

■発想力

課題文の内容と設問を確認した上で、その設問に応答するには何を、どのように論じればよいのか、どのような手順をとって文章を構築すべきなのかを考えたい。そのためにも、まずは課題文の問題意識を共有することが重要だ。

本問の場合であれば、表現とは言葉による繊細な構築物であり、どのような言葉を選択するかで、人の感情への訴求力が変わってくるという問題意識を共有した上で、これまでの言葉体験を捉え返すように、議論を構想してみよう。

■構成力

基本的な議論の方針やアイデアを構想した上で、説得力豊かに論述するには、具体性（事実に基づく具体的な事例や場面の提示）と論理性（課題文の論点や概念を応用した分析、およびロジカルな展開）が必要である。

本問の場合なら、設問の指示に従って、表現をする、あるいは表現されたものを読む、のいずれかのスタンスから、具体的な表現の場面や具体的な作品をあげて、その何がどう面白いのかを課題文の論点を利用して分析し、言葉の魅力を論じていく。

■表現技術

文章表現も1つのコミュニケーションである。自分の思考を確かに他者（採点者）に伝えるには一定の技術が必要だ。句読点を適切に使い、主語と述語を一致させ、文末表現を統一するなど、表現上のルールを順守する。説得力のある文章を書くには豊かなボキャブラリーも求められる。そもそも文字乱雑で乱暴な記述では、他者（採点者）に読んでもらうことも難しい。ただ書くのではなく、どう表現するのかを意識したい。以上は、本問においても同様である。

■知識活用力

本問のような教育系の問題に適切に応答するためには、まずは文部科学省のホームページを閲覧し、現在の教育指導要領においてどのような教育が目指されているのかをしっかりと理解することが重要である。

その上で、教育学の系統的な知識を獲得するために、関連書籍（新書レベルでよい）を読んだり、新聞やネットニュースに目を通すなどしておくことが必要である。家庭、学校、地域それぞれにおける現在の「教育」課題を理解しておこう。

■読解力

課題文を読むこと自体が1つの学びである。本問のような授業実践を扱った課題文では、授業運営上にどのような教師側の工夫があるのかを注意深く読み取り、すでに自分の中にある教育（学）に関する教養と結び付けながら、自分の学びを深めていくことが大切である。

特に本問では「主体的・対話的で深い学び」という現在の学習指導要領が目指す教育のあり方と、それに基づいた教育実践が紹介されているので、慎重に読み取り、自分の理解を深めたい。

■発想力

課題文の内容と設問を確認した上で、その設問に応答するには何を、どのように論じればよいのか、どのような手順をとって文章を構築すべきなのかを考えたい。そのためにも、まずは課題文の問題意識を共有することが重要だ。

本問の場合であれば、「正解のない問い」を前に、間違えることを恐れずに主体的に考える力や自己肯定感情を育てることが大切だという問題意識を共有した上で、これまでの授業体験を振り返るなどして、議論を構想してみよう。

■構成力

基本的な議論の方針やアイデアを構想した上で、説得力豊かに論述するには、具体性（事実に基づく具体的な事例や場面の提示）と論理性（課題文の論点や概念を応用した分析、およびロジカルな展開）が必要である。

本問の場合なら、授業の現場に対してリアルな想像力を働かせ、「主体的・対話的で深い学び」を理想的に実現するにあたって、何が問題となるのかを具体的に見極めながら、将来、教育関係の職に就く者としての自覚をもって論じていこう。

■表現技術

文章表現も1つのコミュニケーションである。自分の思考を確かに他者（採点者）に伝えるには一定の技術が必要だ。句読点を適切に使い、主語と述語を一致させ、文末表現を統一するなど、表現上のルールを順守する。説得力のある文章を書くには豊かなボキャブラリーも求められる。そもそも文字乱雑で乱暴な記述では他者（採点者）に読んでもらうことも難しい。ただ書くのではなく、どう表現するのかを意識したい。以上は、本問においても同様である。